

- 2019年6月の首脳会談後に「新時代の包括的戦略協力パートナーシップの発展に関する中露共同声明」を発表し、両軍関係については「新たなレベル」に向けた措置が謳われたところ。
- ウクライナ侵略開始以降も両国首脳は会談を繰り返しており、2024年5月の首脳会談後に発表された共同声明では「共同演習活動の規模を拡大し、海上及び空中での共同活動を定期的に実施」と明記。
- 2010年代頃から共同演習等の実績を積み重ね、両国軍の連携を強化。
 - ・ 2003年、上海協力機構（SCO）の対テロ共同演習「連携2023」を初実施。
 - ・ 2012年、海軍の共同演習「海上協力」を初実施。 ⇒以降、ほぼ毎年実施。
 - ・ 2018年、中国軍がロシア国内の年次戦略指揮・参謀部演習に初参加。 ⇒以降、参加。
 - ・ 2019年に爆撃機による共同飛行を、2021年に艦艇による共同航行を初実施。 ⇒以降、毎年実施。

「新時代の包括的戦略協力パートナーシップの発展に関する中露共同声明」 (2019年6月5日) [抜粋]

- ◆ 安全保障分野における中露協力の目的は、両国の安全保障を確保し、両国の確固たる発展のための良好な条件を創出し、安全保障上の様々な伝統的及び新たな挑戦と脅威に対抗すること。
- ◆ 両国の国防当局及び軍の戦略的コンタクトを増強し、軍事技術分野における軍事的信頼と協力を深化させ、共同軍事演習を実施し、あらゆるレベル及び分野における実務的協力のメカニズムを改善し、両国の軍の関係の新たなレベルへの引き上げを促進する。

新時代の戦略的連携及び包括的パートナーシップ関係の更なる深化に関する中露共同声明 (2025年5月8日) [抜粹]



「共同声明」を取り交わす
習近平国家主席とプーチン大統領
(2025年5月)

- ◆ 両国は、第二次世界大戦期に鍛え上げられた両国民の戦友としての兄弟関係及び相互援助の伝統が、露中の包括的パートナーシップ及び戦略的

連携の関係の揺るぎない基盤を築いたこと、それが双方の共同の努力のおかげで新時代に突入しその歴史上最高の水準に到達したことを一致して指摘。

- ◆ 両国は、露中間の軍事協力を更に高い水準に引き上げながら、軍同士の相互信頼及び連携を深化させ、共同演習の規模と地理的範囲を拡大し、共同の海上・航空パトロールを定期的に実施する。
- ◆ 露中は、自らの「インド太平洋戦略の実現に地域の国々を引き込む米国とその同盟国による試みの否定的な影響を指摘する。露中は、同地域への「拡大抑止」を名目とした核兵器の配備、地上配備型中距離ミサイルの展開などは受け入れられないと考えている。

軍事的連携の動向①～海軍共同演習「海上協力」～

- 中露海軍は2012年以降、共同演習「海上協力」をほぼ毎年、持ち回りで開催。
- 演習内容：13年に泊地防御・船舶護衛・海賊対処訓練を追加。15年に共同着上陸、17年に潜水艦救難訓練、21年に共同掃海訓練、22年に封鎖作戦、臨検・拿捕が初めて演練される。

年	2012	2013	2014	2015		2016	2017		2019	2021	2022	2024	2025
回次	第1回 (4月)	第2回 (7月)	第3回 (5月)	第4回 (5月)	第5回 (8月)	第6回 (9月)	第7回 (7月)	第8回 (9月)	第9回 (4-5月)	第10回 (10月)	第11回 (12月)	第12回 (7月)	第13回 (8月)
期間	6日	8日	7日	10日	9日	8日	6日	8日	6日	4日	7日	4日	5日
場所	黄海	日本海	東シナ海	地中海	日本海	南シナ海	バルト海	日本海 ホルムズ海	黄海	日本海	東シナ海	南シナ海	日本海 (ウラジオストク沖)
参加艦艇の所属	北海艦隊 東海艦隊	北海艦隊 南海艦隊	北海艦隊 東海艦隊 南海艦隊	北海艦隊 (海賊対処)	北海艦隊 東海艦隊 南海艦隊	北海艦隊 東海艦隊 南海艦隊	南海艦隊	北海艦隊	北海艦隊 東海艦隊	北海艦隊 東海艦隊 南海艦隊	北海艦隊 東海艦隊	南海艦隊	北海艦隊 東海艦隊
	太平洋艦隊	太平洋艦隊	太平洋艦隊	黒海艦隊 バルト艦隊	太平洋艦隊	太平洋艦隊	バルト艦隊	太平洋艦隊	太平洋艦隊	太平洋艦隊	太平洋艦隊	太平洋艦隊	太平洋艦隊

(2012年演習)
初回の演習では基本的な内容のみ実施。
(戦闘訓練や実弾射撃、洋上補給、捜索救難)

(2013年演習)
● 泊地防御訓練、船舶護衛訓練や海賊対処訓練を追加。

(2015年演習)
● 共同着上陸訓練を初実施。

(2017年演習)
● 潜水艦救難訓練を初実施。

(2021年演習)
● 共同掃海訓練を初実施。

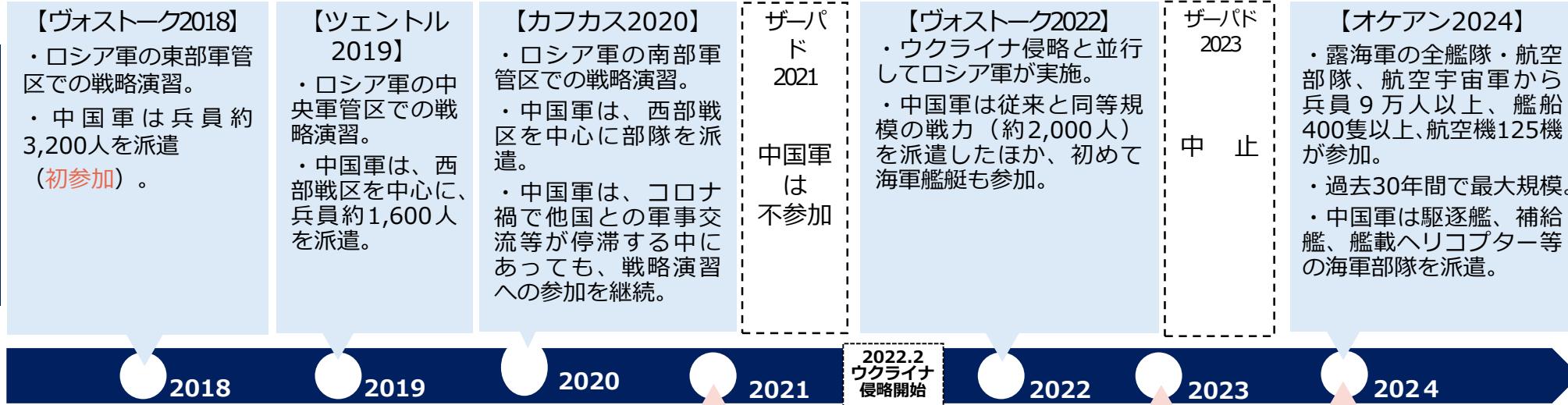
(2025年演習)
● 無人機・無人艇の共同撃退を実施。

(2022年演習)
● 封鎖作戦、臨検・拿捕を初実施。
● 両国艦艇は港湾での事前協議等なしに直接演習海域で合流して演習を実施。

軍事的連携の動向②～戦略軍事演習への相互参加～

- 2018年、ロシア軍の戦略演習「ヴォストーク2018」に中国軍が初めて参加。
- 2021年には、中国軍の戦略演習「西部・連合2021」にロシア軍が初めて参加。翌年のウクライナ侵略開始以降も「ヴォストーク2022」に中国軍が、中国軍の戦略演習「北部・連合2023」にロシア軍がそれぞれ参加し、戦略演習への相互参加を継続。
- 「北部・連合2023」では共同の戦闘指揮所が中国艦艇上に開設されたとされる。

ロシア主催



ロシア軍は実戦経験が豊富で、作戦能力も高いため、ロシア軍との作戦と訓練における有益な経験は、我々(中国軍)が参考として学ぶに値する。

邵元明・統合参謀部副参謀長
(「ヴォストーク2018」
派遣部隊の指揮官)

- 【西部・連合2021】
- 中国・西部戦区主催の戦略演習とされ、ロシア軍が初参加。
 - ロシア軍部隊は中国陸軍の装備も使用しつつ、中国側立案の計画の下、共同運用能力を強化したとされる。

- 【北部・連合2023】
- 中国・北部戦区主催の戦略演習とされる。
 - 両軍から艦艇10隻以上、航空機30機以上が参加し、共同の戦闘指揮所が中国艦艇上に開設されたとされる。

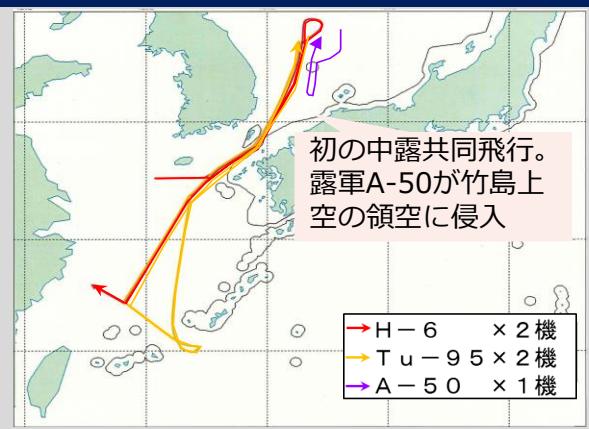
- 【北部・連合2024】
- 両軍から艦艇10隻以上、航空機30機以上が参加。
 - 演習と同時期に、中露海警共同演習・共同航行を実施したとされる。

※「ヴォストーク」は以前、中国も仮想敵の一つとして実施されていたとされる。
※「ザーパド2021」に参加したロシア軍の一部は、演習終了後も展開を続け、ウクライナ侵略に参加。
※中国軍の「西部・連合」「北部・連合」は、ロシア側の発表では「戦略演習」とはされていない。

軍事的連携の動向③～爆撃機の共同飛行～

- 2019年以降、中露両国は爆撃機の共同飛行を毎年実施。（22年度・23年度・24年度には計2回実施）
- 相手国への相互着陸（22年11月）や戦闘機の随伴飛行（23年6月）を実施する等、着実に連携を強化。
- 2022年5月の共同飛行はQUADの首脳会合が東京で開催されているタイミングで実施。また2023年3月の中露共同声明では定期的な実施が明記。

1回目(2019.7.23)



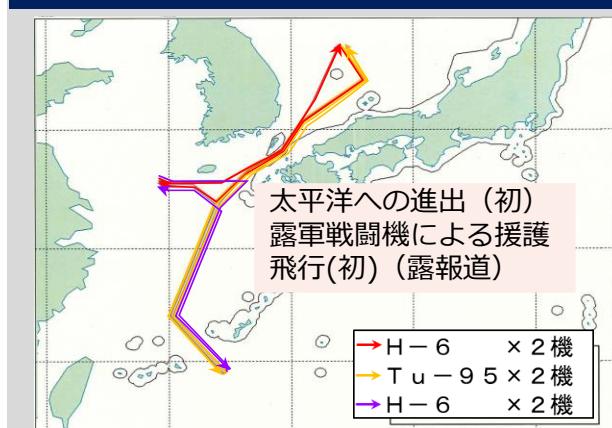
2019

2020

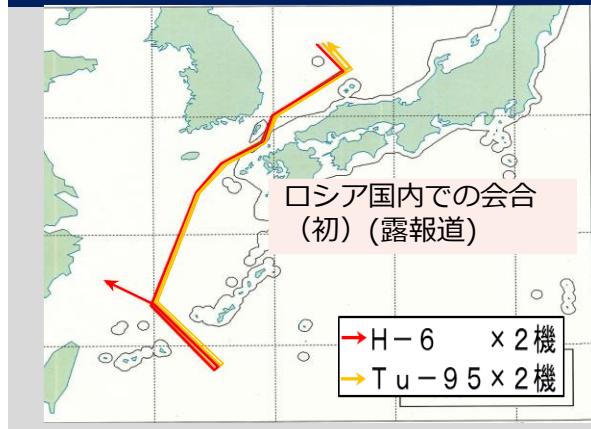
2021

2022

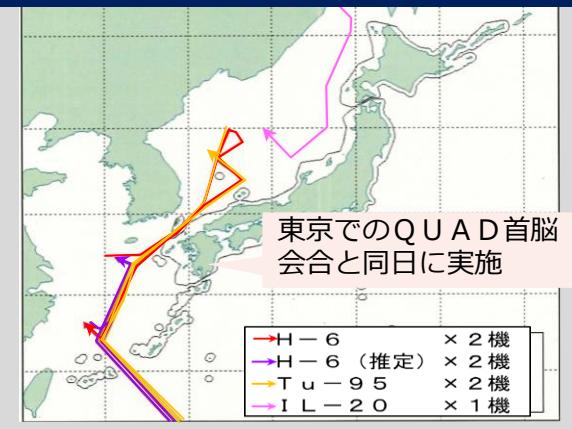
2回目(2020.12.22)



3回目(2021.11.19)



4回目(2022.5.24)



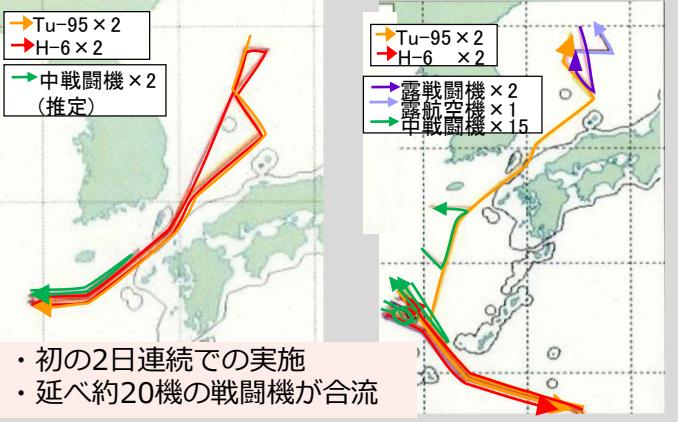
5回目(2022.11.30)



軍事的連携の動向③～爆撃機の共同飛行～

- 2023年3月の中露共同声明では定期的な実施が明記。
- 2023年6月の共同飛行は、初めて2日間にわたって実施されたほか、グアム方面に進出する経路を取るなど、共同飛行は長期化・長距離化。

6回目(2023.6.6-7)

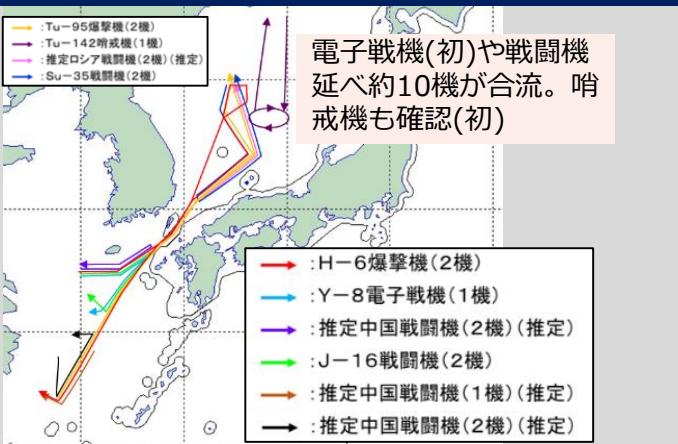


8回目(2024.7.25)



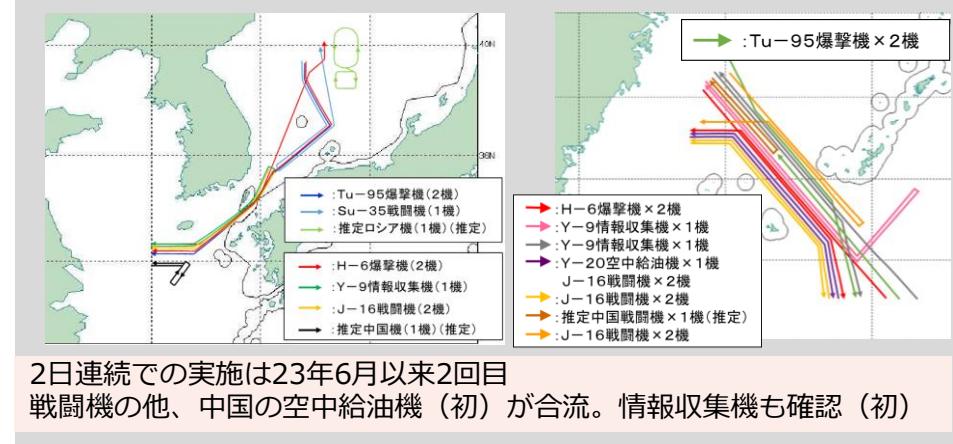
2023

7回目(2023.12.14)



2024

9回目(2024.11.29-30)



軍事的連携の動向④～艦艇の共同航行～

- 2021年以降、共同演習に連接する形で、中露海軍は艦艇の共同航行を毎年実施。**活動海域は拡大**。
- 2023年共同航行では、共同航行中にロシア軍対潜哨戒機と連携した対潜戦訓練や共同航行実施前後の相互寄港がそれぞれ初めて実施。2024年には初めて年に2回実施。

回	年月	露艦艇 	中国艦艇 	活動海域	特徴
1	2021年10月	ウダロイ級DD×2 ステレグシチー級FFG×2 ネーリン級AGM×1	レンハイ級DDG×1 ルーヤンIII級DDG×1 ジヤンカイII FFG×2 フチ級AOR×1	日本海～(津軽海峡)～西太平洋～東シナ海	・露中艦艇が同時に津軽海峡通峡は初 ・本邦周回航行
2	2022年9月～10月	ウダロイ級DD×1 ステレグシチー級FFG×3 ドゥブナ級AOR×1	レンハイ級DDG×1 ジヤンカイII FFG×1 フチ級AOR×1	日本海～(宗谷海峡)～ オホーツク海～ベーリング海～フィリピン海～東シナ海	・活動海域の拡大 (オホーツク海、ベーリング海経由は初)
3	2023年7月～8月	ウダロイ級DD×2 ステレグシチー級FFG×2 ドゥブナ級AOR×1	ルーヤンIII級DDG×2 ジヤンカイII FFG×2 フチ級AOR×1	日本海～(宗谷海峡)～ オホーツク海～ベーリング海(アリューシャン列島を迂回)～太平洋～東シナ海	・露中艦艇が相手国に相互寄港(ウラジオストク、青島) ・露対潜哨戒機との連携(東シナ海) ・中国将校が露艦艇に乗艦・訓練指導
4	2024年7月	ステレグシチー級FFG×1 ドゥブナ級AOR×1	ルーヤンIII級DDG×1 ジヤンカイII FFG×1 フチ級AOR×1	東シナ海(濟州島)～(大隅海峡)～フィリピン海～南シナ海	・共同演習等から連結せず実施は初 ・活動海域の拡大(南シナ海は初) ・同時に「海上協力」実施は初
5	2024年10月	ウダロイ級DD×2 ボリス・チリキン級AOR×1	レンハイ級DDG×1 ルーヤンIII級DDG×1 ジヤンカイII FFG×1 フチ級AOR×1	オホーツク海～太平洋～東シナ海	・年に2回実施するのは初 ・太平洋北西部で対潜・対空防御訓練を実施 ・東シナ海で海難救助訓練を実施
6	2025年8月	ウダロイ級DD×1 	ルーヤンIII級DDG×1 フチ級AOR×1 	日本海～(宗谷海峡)～ オホーツク海～太平洋	・中露艦艇が共同航行の一環として、物資補給のためペトロパヴロフスク・カムチャツキー港に寄港 ※ 露太平洋艦隊は、中露潜水艦が初めて日本海及び東シナ海における共同航行に参加したと発表

※ DDG：ミサイル駆逐艦、FFG：フリゲート、AOR：補給輸送艦、DD：駆逐艦、AGM：ミサイル観測支援艦